

広島県府中町の中学校男子生徒自殺にかかわって

全広島教職員組合（略称：全教広島）

はじめに

広島県府中町の中学校3年生の男子生徒が、昨年12月に自宅で自殺（自死）した問題にかかわって、亡くなった生徒およびご遺族の方に対して心から哀悼の意を表するものです。

何より子どもの命を育む場である学校の指導過程で今回のような事態が生じたことは、極めて残念なことです。尊い命が奪われたことの重みを受けとめ、「なぜこのようなことが起きたのか明確に示してほしい」という遺族の方の願いを基本にしながら、徹底的な調査による事実の解明および根本的な再発防止策を求めるものです。

今回の事態は、今日の広島県教育が抱える深刻な課題を浮き彫りにしているのではないかと考えます。全教広島は、この問題にかかわって以下の点について課題を提起します。

1. 当該校の「進路指導」等にかかわって

- (1) 学校側が、誤った万引きの記録を基にした進路指導を行なった結果が、今回の事態の原因の一つであることが指摘されています。原因の詳細については、第三者検討委員会の検証を待たなければならない課題ですが、学校側の対応や指導に課題や問題点はなかったのかの視点からの検証が必要だと考えます。高校受験という子どもの将来にかかわる問題に対して、慎重で丁寧な対応が行なわれていたのか、なぜこのような事態が起きたのか解明されるべき課題だと考えます。
- (2) 推薦選考基準について、2014年度までは、中学3年時の非行歴を選考基準にしていたものを、1年生当時からの非行歴にさかのぼることにしたとされています。選考基準が年度途中のこの時期に（昨年11月）変更されたとされていますが、この基準変更が今回の事態につながったのかどうか。なぜ、この時期に変更されなければならなかったのか検証されるべき課題だと考えます。

2. 広島県における「高校入試制度」にかかわって

- (1) 広島県の高校入試制度のあり方も今回の事態を引き起こした要因のひとつだと考えます。私立高校では、私学助成制度が不十分なために、入学者数確保の失敗が経営危機に直結し、公立高校では、生徒数が学校への予算配分や学校存続・統廃合に直結します。また、高校卒業時の数値による「成果」を求められる高校は、成績優秀・品行方正な生徒を多く入学させることに力を注がざるを得ない状況になります。これらの結果として、私立高校での「推薦・専願」、公立高校での「選抜（1）」などの制度が導入されています。

一方、中学校では、高校入試で「推薦する・しない」ということが、生徒を従順に従わせる手段に使われているという現実があることも否定できません。この流れの中で、今回のように「触法行為」（非行歴）のことが問題になりました。

本来、高校入試は教育の一環であり、進路指導も子どもの将来を考え、子どもの成長を支え、励ますべきものです。生徒の生き方も含めて子どもとともに考えることそのものが重要な進路指導です。このことに相反する事態を生み出している現在の高校入試制度のあり方について、

検証する必要があると考えます。

- (2)「推薦選考基準」に「教師の指導に従い、問題行動や触法行為がないこと」と記されています。多くの中学校で、このような項目が示されています。このことが、「人格の完成をめざす」という教育の目的に照らして適切なものかどうかを議論し、検証すべき課題だと考えます。教育の目的は、子どもの持つ力を最大限に成長させることです。学校は憲法や子どもの権利条約が保障する子どもの成長発達権を実現しなくてはなりません。
- また、「推薦基準」にかかわって、「統一基準がなく、各学校で判断」している実態を受け、統一の基準を設定すべきという動きがあります。しかし、子どもの実態や背景には違いがあり、短絡的に統一化、マニュアル化することはふさわしくないと考えます。

3. 「競争と管理」の教育体制と問題の背景にかかわって

- (1) 子どもたちの声に真摯に耳を傾け、人間として尊重する学校であったかどうかの視点から今回の事態を検証する必要があります。そもそも子どもはまちがいや失敗をくり返しながら成長していきます。その成長を励まし、支えるのが学校の役割です。たとえ、1年生時に万引き等の触法行為があったとしても（今回は誤認ですが）、その後反省をし、成長していくケースは無数にあります。1年生、2年生の万引き等、まちがいや失敗が3年生になって進路決定に影響することは学校の役割を自ら否定するものであり、決してあってはならないことだと考えます。
- (2) 国連子どもの権利委員会は、日本政府に対して、「高度に競争主義的な学校環境が、就学年齢にある子ども間のいじめ、精神的障害、不登校・登校拒否、中退および自殺の原因になることを懸念する」（2010年5月）として、学校システム全体を見直すよう3回目もの勧告をおこないました。思春期は、人間の成長・発達から見て矛盾と葛藤に充ちた時代です。日本の子どもたちはその時期に、世界各国と比較しても、最も激しい競争主義教育の渦中におかれています。競争的な受験体制の実態および規範意識を強調し、まちがいや失敗への共感と受容が希薄な日本の教育制度そのものへの批判と検証が求められています。
- (3) 個人の責任の追及、学校バッシングのみに終始することは問題の本質を見誤ります。これまで指摘してきたことを検証するとともに、下記の点については、問題の背景をつかむ視点として検証されるべき課題です。
- ① 広島県の教育は、1998年の「是正指導」以降、教職員への管理強化が徹底され、上位下達の学校運営が強要され、創造性や自主性の発揮が阻害されてきました。「競争と管理の強化」が浸透し、「子どものことを中心にして話し合うような職員会議がなくなり、管理職と一部教員によってすべてのことが決められる」「意味のない報告書作成や細かいチェックが厳しく、自由で創造的な教育実践をする余地も時間もない」などの実態が県内多くの学校現場から報告されています。このような管理強化の学校体制が今回の事態の背景にあることを指摘します。
- ② 今、広島県内の各学校で「生徒指導規程」なるものが作成され、それに基づいた生徒指導体制が強化されています。そこには、発達途上の子どもに対する受容と共感はありません。子どもを取りまく環境への配慮や発達していく可能性への期待もありません。結果がすべての、まさに「ゼロトレランス（寛容度ゼロ）」対応です。問題行動の背景や原因に目を向けることなく、ともかく「問題行動を起こす児童生徒に対し、毅然とした指導を行う」ことが最重要視され、教師も子どもも従わざるをえない現実が今回の問題の背景にあることを指摘します。

③「公開授業準備や報告書の作成、教育委員会などからの新たな教育施策の押しつけなどの実務に追われ、子どもと向き合う時間が足りない」という声は多くの学校や教員から聞かれます。全教が取り組んだ「勤務実態調査2012」の結果では、時間外勤務時間が月69時間32分、持ち帰り仕事を含めれば、91時間13分という異常な数字が報告されています。広島県でも極めて深刻な実態が多くの学校や教職員から報告されています。

居場所がなく、孤立感を抱える小中学生が増える中で、時間をかけて信頼関係を築くことがとても大切です。子どもと向き合い、じっくり話を聴くことからの指導が不可欠なことは今回の事例からも明らかです。「異常なまでの多忙化」が学校や教職員から子どもと向き合うゆとりとじっくり考える時間・空間を奪っています。

4. 教育行政の対応について

広島県教委教育長は、3月14日の会見で、「組織的な学校運営ができていない」「組織の体をなしていない」などと該当校を厳しく批判しています。(3)でも指摘したように問題の背景をみた時、その責任を棚上げにし、学校や教職員の対応や体制に問題があることを強調することはあまりに無責任と言わざるを得ません。

さらに、文部科学省は、今回の問題での「中間取りまとめ」を作成し(3月25日)、児童生徒課長名での「通知」を全国の教育委員会等の教育関係機関に発出しています。「組織的な対応の欠如」「情報管理の不徹底」「生徒指導・進路指導上の不適切な対応」を課題として指摘し、「校長のリーダーシップの下での組織的な対応」を強調しています。

これまで指摘したように、教育行政そのものが管理と強制の教育施策や教育制度への反省なしに、学校や市町教育委員会等に「組織的、適切な対応」を指示するだけでは、根本的な解決にはなりません。この視点からの第三者委員会の検証が必要だと考えます。

おわりに

学校の主人公は言うまでもなく子どもたちです。その子どもたちの声をしっかり聴き、子どもの願いや思いに寄りそうことを教育活動の基本に据えることが重要です。第三者委員会の検証においても、さまざまな方法で子どもの声や願いを聞き取ることを重視するべきだと考えます。

私たち教職員は、子どもの命を守り、育むことに全力を傾ける歩みを継続することが大切です。自らの実践をふり返り、問い直す取り組みをすすめることも重要です。そのためにも、教職員の自主的・創造的な取り組みが尊重され、自由に意見が言い合え、教職員間の協同性・同僚性を発揮できる職場こそ重要だと考えます。

「子どもを信頼し、保護者と悩みを共有し、子どもの自立と自治の力を育む」、そんな「子ども参加・父母共同の学校と教育」をめざした営みこそ、今の学校、教育に求められていると思います。

全教広島は、このような「参加と共同の学校づくり」の実現のために全力をあげる決意を表すとともに、今の学校と教育を何とかしたいと願う広範な方たちとの対話と共同をひろく呼びかけるものです。